

リサイクル、楽しく学んだよ!

～リサイクルまつり'06イン登別・白老～

7月30日(日)・31日(月)の2日間、クリンクルセンターで、『リサイクルまつり'06イン登別・白老』(登別市・白老町共催)が行われました。

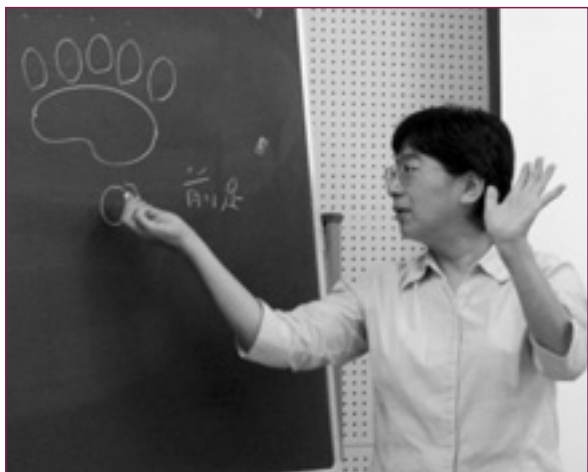
会場には地球温暖化防止やリサイクルなどをテーマにしたものや廃油を再利用して走るバイオディーゼル車の展示などのコーナーが設置されました。

この日は、スタンプを集め、たい肥をもらう『クリンクルスタンプラリー』や『フリーマーケット』が人気を集めていたほか、子どもたちは、ペットボトルを利用した風車やケン玉づくりの『リサイクル工作教室』『ペットボトル釣り大会』ペットボトルのキャップを5個はずしての『エアードーム』での遊びに夢中になっていました。

参加者は多彩なイベントを楽しみながら、ごみ減量やリサイクルの大切さを実感していました。



クマとの共存を目指して



～講演会『ヒグマとともに』～

7月29日(土)、市立図書館で講演会『ヒグマとともに』(市立図書館主催)が開かれました。

この講演会は、登別ゆかりの方を招いて毎年行っているもので、今回の講師は、のぼりべつクマ牧場ヒグマ博物館学術課長の前田菜穂子さん。

この日は、写真家稗田一俊さんが北海道各地やアラスカ州などで撮影したクマの映像を、前田さんの解説で鑑賞した後、『ヒグマとともに』と題して講演。「鉦山町でクマの足跡やふんが発見されています。クマが人の食べ物の味を覚えると大変なことになるので、食べ残しやごみは必ず持ち帰ること。山に入るときは鈴や笛、クマよけスプレーを持って行くようにしてください」と話していました。

参加者は、メモをするなど熱心に聞いていました。

楽しい思い出ができました

8月2日(木)、富岸小学校で『ふるさと豆記者訪問事業』の交流会(姉妹都市小中学校交流事業実行委員会主催)が開かれました。

この事業は、登別市と宮城県白石市の小学生が、歴史的にゆかりのある相互のまちの理解や学校間の交流を目的に、1年ごとにお互いのまちを訪問しているもので、今年は白石市の小学6年生10人と引率者2人が登別市を訪れ、富岸小学校の6年生と交流し友好を深めていました。

交流会では、富岸小学校の6年生を代表して栗井春香さんが「楽しく思い出に残る1日にしましょう」とあいさつし、白石市の児童を代表して小畑慶太君が「登別の皆さんと仲良くなって帰りたいです。そして、白石市のことを伝え、充実した日にしたいです」と述べていました。

続いて、両小学校などの紹介が行われたほか、ゲームなどを行い、子どもたちは楽しい時間を過ごしていました。

～ふるさと豆記者訪問事業～

